

## 第 16 回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会会議録

### 1. 日 時

平成 18 年 12 月 6 日 (水) 13 時 30 分 ~ 16 時 30 分

### 2. 場 所

塩谷広域行政事務組合 1 階大会議室

### 3. 出席者

職 名	氏 名
委員長	(学識経験者) 西谷弘子
副委員長	( さくら市 ) 菊地崇雄 (欠席)
委員	( 矢板市 ) 長谷川健 (欠席) 小松高行 (欠席)
	( さくら市 ) 天野順子 蛭田幸子 関 忠司
	( 塩谷町 ) 松尾享子 立岡芳司
	( 高根沢町 ) 飯泉八重子 君島 毅 (欠席)
	(地元住民代表) 高塩克敏 (欠席) 岡田 明
	(学識経験者) 小久保行雄
	(アドバイザー) 今泉繁良 (欠席) 中村祐司
職員	( 矢板市 ) 高瀬主査
	( さくら市 ) 手塚副主幹
	( 塩谷町 ) 中島課長補佐
	( 高根沢町 ) 金澤課長補佐
事務局	(塩谷広域行政組合) 高久事務局長 磯室長 小堀主幹 印南係長 斉藤主査 阿久津課長 館脇副主幹
	(環境工学) 松本良二 山本方晶

### 4. 議事次第

#### 1) 開 会

#### 2) 第 15 回ごみ処理検討委員会検討結果報告

#### 3) 報告事項

環境施設 (熱回収施設) 規模の中間提言書について  
立地地域に可能な望ましい地域還元施設について  
一般廃棄物処理基本計画の減量化・資源化施策について  
その他

#### 4) 議 題

立地地域に可能な望ましい地域還元施設について  
一般廃棄物処理基本計画の減量化・資源化施策について

## その他

### 5) 閉 会

#### 5 . 配布資料

- ・資料(1) 立地地域に可能な望ましい地域還元施設の事例
- ・資料(2) 減量化・資源化施策の現状と今後の取り組み

#### 6 . 受領資料

- ・なし

#### 7 . 第 16 回ごみ処理委員会検討内容

##### 1) 第 15 回ごみ処理検討委員会報告

###### 環境施設(熱回収施設)規模の中間提言書について

- ・中間報告書については、です・まず調で確認すること。
- ・P.3 の木製パレットは 4 月から産業廃棄物の指定になったため、考える必要はないのではないか。
- ・木製パレットの 785t/年を除き、修正を行う。修正については事務局に一任をお願いする。
- ・P.4 の「一定程度の余裕」が一致しない。
- ・提言書において、用地のことを記載するのはおかしい。
- ・「今後、更に」を「早急」にしているかどうか。提言書 P.1 中「また、「塩谷広域行政組合環境施設用地検討委員会」において、環境施設の用地も 7 地区が提案され、今後更に絞込みを行っていくことにしています。」を削除する。確認については、委員長に一任するものとします。

###### 立地地域に可能な望ましい地域還元施設について

- ・環境施設、余熱利用施設、地域還元のコミュニティー施設が必要である。
- ・新しく必要な項目があれば、次回の委員会で提案してもらいたい。
- ・具体的なものを探して出してやらないといけない。委員長の意見のとおりやるべきである。
- ・学習する施設では、子供たちにリサイクルや分別をした結果を示し、見られるようにしてやる必要がある。
- ・宇都宮市の清掃工場では「あり」の絵が描いてある。土の中の分解者ということである。学習内容として、こういうものを盛り込んでどうか。
- ・学習施設建設のスケジュールはどうなっていますか。ごみ処理施設建設後になるのか。3年間かけてつくるのか。
- ・住民を巻き込みながらやる方が良い。
- ・建てた後のランニングコストを考える必要がある。
- ・最終的に地域の方の考えが優先となる。
- ・体験できるものを考えてきていただきたい。
- ・日帰りの見学旅行でアサヒビールにいった。リサイクル製品が置かれていた。体験

できるものであった。

- ・次回の委員会に出席できない方は環境教育施設、余熱利用、コミュニティー施設の案を事務局へ出していただきたい。

#### 一般廃棄物処理基本計画の減量化・資源化施策について

- ・横浜市は説明会をよくやっている。やらなければならない。
- ・矢板市の委員会で子供を教育していかないといけない。4年生はどこでもやっていると思う。
- ・松島を見せるなら、他の施設を見せてほしい。汚いごみを捨てているので誤解ではないが、リサイクルを見せたい。
- ・子供はちゃんとする。子供にわかるようにする。
- ・小学校4年で行っているが、教育が重要であるので一つの施策として取り上げてほしい。
- ・ごみのキャッチフレーズを募集したことがある。関心は子供が高かった。
- ・副読本は各町で作っているのですか。
- ・協力率を立てているので各市町に出前講座をやってほしい。その姿勢が協力につながっている。押しかけ講座でもよい。取り組んでほしい。
- ・プラスチック、発泡スチロールは建物があって、住民がフレコンパックに入れている。

#### その他

- ・12月2日、3日に「こちら栃木調査隊」で「(有)ドンカメ」が放送される。これは、県の企画課からの紹介である。
- ・BDF(バイオディーゼル燃料)の製造装置を来週設置し、給食センターの廃油をBDFにする。BDFは給食の配送車に利用することにしている。廃油は「エコハウス高根沢」に住民に持ってきてもらうことにしている。再来週に出発式を行う予定である。
- ・BDFの製造装置の購入費は600万円、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の事業で補助を受けている。

#### 2) 報告事項について

- ・特になし。

#### 3) 立地地域に可能な望ましい地域還元施設の事例

##### 【委員長】

- ・皆さん、こんにちは。では、第16回目の議題に入りたいと思います。立地地域に可能な望ましい地域還元施設についてということで、前回の資料に補足された部分がありますので、その部分の説明をしていただいてから、委員さんからの意見をいただきたいと思います。

##### 【事務局(コンサル)】

- ・それでは、資料(2)の前回配布させていただいた資料から変更しているところを説

明させていただきます。まず、最初の1ページ目なんですが、こちらは前回と同じです。次のページ、2ページ目をめくっていただいて、こちらで大きく項目を今回、追加して、4つに分類させていただきました。まず、2ページの方が一番左側に環境学習、環境保全活動施設ということで、環境学習に関する項目だということでインデックスをつけさせていただきました。3ページにつきましても同じく環境学習・環境保全に関するものなので、左側に同じく環境学習に関する同じく項目をつけましたというところがございます。4ページ目に入りまして、今度は第14回、第12回について、お渡しした資料を事例ごとにまとめたものがございます。左側には4ページ目には環境学習・環境保全活動施設ということで展示やゲームによる環境学習設備といったものをまとめております。あと工房については体験工房とかガラス工房とかを一くくりにして、とりまとめたものがございます。5ページ目にまいりまして、最後のページなんですけれども、温浴場とか、植物園とか余熱を利用して地域還元するような施設ということで左側に余熱利用施設というところの列をつくりました。その余熱利用施設の下にコミュニティー施設、地域の屋外に、屋内のものもありますが、公園的なものの事例を実績ということで一くくりにしてまとめております。最後にその他ということで、公民館の整備とか道路整備とかこういったものもあるのではないかとということで、その他としてまとめております。以上4つの項目ごとに今回の資料の事例をまとめたというところの変更がございます。

【委員長】

- ・前回の時にも余熱利用施設とかコミュニティー施設というあとは環境学習保全施設という考え方でというご意見がありましたのでこういったインデックスをつけながらまとめていただきました。それでは議題の中身に入ります。本日までということで何か還元施設であれば出してください。欠席の方は事務局までということだったんですが、事務局には届いていないということですので、今日出席の委員さんの中から案ある方がいらっしゃったらお願いしたいんですけども。

【委員】

- ・まだごみの中から使えるものがある。展示してほしい人がいればあげる空間があればよい。

【アドバイザー】

- ・コンセプト、柱を作ってから行なってはどうか。建設までに考えていたらどうか。
- ・塩谷広域の個性を出す必要がある。自ら作っていくものがよいのではないかと。塩谷の個性を出す必要がある。5つの柱を考えてみました。

【委員】

- ・水辺環境として、地下水は利用できない。川の水を利用してはどうか。

【委員】

- ・コンセプトは大事である。

【委員】

- ・エネルギー利用し、温室栽培などもよい。

【委員】

- ・衣・食・住・遊を入れていくとよい。個人的には遊園地がよい。「衣」は森林資源を

利用する。「食」は野菜、米、果物。要素として必要なのは「遊び」だと思う。

【委員】

・搬入車が多いため、子供が行くには、整備して考慮する必要がある。

【委員長】

・地域の人によってくれるイメージの転換が必要である。

・環境のテーマが必要である。

【委員】

・木材を利用するのは大事である。

【委員長】

・エコ通貨、キツザニアの事例がある。

【委員】

・1回きりというのはよくない。エコカードを利用すれば、点数でまた利用することが考えられる。

・他自治体において、足利工業大学と連携して、よい結果を出しているようである。

【委員】

・情報発信できる施設がよい。

【委員長】

・情報発信は大きい意味を持っている。こういうのをやりたいからあそこに行く施設としたい。

【委員】

・松島の焼却場では、カブトムシ、クワガタムシが多くとれた。

【アドバイザー】

・「衣・食・住・遊」を取り入れた「還元施設の整備に対する基本的な考え方」とする。

【委員長】

・考え方を提言してはどうか。

【委員】

・地域にポイントをあげるというのはどうか。ごみを無料にするなど。

【委員長】

・「地域」の線引きが難しいのではないか。

一般廃棄物処理基本計画の減量化・資源化施策について

【委員長】

・「排出抑制方策1 .教育・啓発活動の充実 広報誌にごみ情報を掲載する。」において、ホームページでも見ているが紙面の方がよいのではないか。

【委員】

・「排出抑制方策1 .教育・啓発活動の充実 諸団体および町内会との継続的な話し合いの機会をつくる。」において、紙面+ホームページ+説明会が必要ではないか。

【委員】

・「排出抑制方策1 .教育・啓発活動の充実 その他」において、さくら市では、平成6年度より、生ごみ減量のため、EM菌を使った堆肥を作っている。

**【委員】**

- ・「排出抑制方策3．一般廃棄物排出事業者に対する減量化指導の徹底」において、聞き取りアンケートを行ってはどうか。ルール違反はペナルティーが必要ではないか。

その他

**【委員長】**

- ・中間提言書を12月25日に提出します。「立地地域に可能な望ましい地域還元施設について」の検討が今回で終わりましたので追記して提出します。内容については委員長に一任することとします。

以上